

道

2023・8・9

通信 No 1744



本日の練習 6時半～8時40分 岩間ホール 小坂・二宮先生

せわしき流れの河（プリント） 美し春の花よ（歌集5集P10） やなぎ（歌集2集P80）

のあざみ

次回8/16（水）練習会場変更！（吉野町プラザホール @300円）清水・小坂先生

バイカル湖のほとり（歌集2集42P） 山のロザリア（プリント） 広きドニエプルの嵐（プリント）

《ロシア民謡メドレーについて》

55周年演奏候補曲「ロシア民謡メドレー」について次のようなご意見がありました。

ともしび、カチューシャ、泉のほとり、この3曲はたしかに戦後の歌声運動でさかんに歌われて、市民にはロシア民謡とされているが、れっきとしたソビエトの戦意高揚の歌ではないだろうか。と云うことで、この3曲は外した方がBest！ 思い出の「ロシア民謡」のタイトルにも反する。

論点は、①ソビエトの戦意高揚の歌だから歌いたくない ②ロシア民謡ではない ということでしょうか。

先ず②について。「民謡とは作曲者不詳である」というような定義をもとに「ロシア民謡」を論じる研究者もいますが、上記のご意見にもあるように、日本ではロシア以外の曲や、作詞・作曲者がはっきりしている曲も含めて広く受け入れられてきました。合唱団「道」(団員アンケート)でも、好きな「ロシア民謡」として認知されています。戦時歌謡もいわゆる「ロシア民謡」の一分野と捉えることもできるでしょう。もちろん、個別の曲には作詞・作曲者の表示は必要ですが、いわば「ロシア的な民衆歌謡」といってよいかもしれません。「ロシア民謡」であるかどうか、あまり言葉尻にとらわれず、愛唱歌を束ねた「ロシア民謡メドレー」で良いと思いますがいかがでしょうか。

問題提起の主旨は①のようです。「ロシア民謡メドレー」は、過去2回、35周年、40周年の節目定演で取り上げられていて、合唱団「道」を代表するようなレパートリーのひとつです。今までが良くて？今回はダメというのは、やはりロシアが戦争を始め、今も続いていることと無関係ではないのでしょうか。しかし、私たちは、これらの曲を戦意高揚のために歌ってきたわけではないし、今回も同様です。むしろ、すぐれた文化をもだいなしにするような戦争に反対する立ち位置で歌いたいと思います。メドレーですから、全曲歌う必要はなく、戦意高揚*?と思える部分を省いたり、言い換えたり**もできるでしょう。戦時歌謡とひとくくりせず、具体的な日本語の歌詞で判断してもよいのではないのでしょうか。

*（良い戦争、は無いと思っていますが）ご指摘の曲の背景は侵略者ナチとの戦争であり、現在は侵略者の側の戦争なので、戦意高揚の意味も違ってくるのではないか

**ともしび:1番, 2番 カチューシャ:日本語で1番, 2番 泉のほとり:言い換えも考慮して抵抗感のないものにする工夫はあってよい

いずれにしても、なぜ、今、「ロシア民謡」か。自身やお客様からも問われる状況だと思えます。合唱団「道」の根幹にかかわる課題とも言えますが、排除リストを増やすのではなく、55周年をどうしたら歌っていけるか、その後はどうするかも含めて、皆さんで考えていくのがよいと思います。//

石田 勉 2023/08/05

『連絡事項』

- ・ 本日「山のロザリア」「広きドニエプルの嵐」楽譜配布します
- ・ 54周年定期演奏会終演アンケートまとめましたので配布します。提出者：14名
- ・ 次週8月16日（水）の練習は「吉野町プラザホール」です。お間違えなく。会場費300円